

第10回関西クィア映画祭2016

実施報告書

10th Kansai Queer Film Festival 2016
Official Report

- 【大阪会場】 2016年4月29日（金） 30日（土） 5月1日（日）
とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ
- 【京都会場】 2016年 5月20日（金） 21日（土） 22日（日）
京都大学西部講堂

関西クィア映画祭 実行委員会

<http://kansai-qff.org/>
info@kansai-qff.org
080-3820-2731（留守電）

はじめに

第10回を迎えることができました

2005年に始まった関西クィア映画祭も、とうとう第10回目を開催できました。これまでの延べ来場者数は12,341人。延べ上映作品数は327作品。多くの来場者の方々と共に、たくさんの思いを積み重ねることができました。これまで様々な形で映画祭をご支援・ご協力頂いた皆さまに、改めて感謝いたします。

性的マイノリティーやセクシュアリティーを巡る社会的状況は大きく変わり、以前と比べて多様な取り組みが各地でなされるようになってきました。そんな中で、関西クィア映画祭にしかできない大切な取り組みがあることも、はっきりとしてきました。「タイヘン×ヘンタイ」を掲げ「クィア」を名乗るのに恥じない映画祭を、これからも続けていきます。

充実の特集が3つ

第10回映画祭の最大の特徴は、3つの特集でした。いずれも、日本のセクマイ/クィア系映画祭では、関西クィア映画祭でしか出来ない、貴重な特集でした。

2015年度の北京クィア映画祭、香港レズビアン&ゲイ映画祭、台湾国際クィア映画祭の全作品の中から選りすぐった9作品を上映した**華語特集**では、多くの監督にも会場に来場頂き、特集の名に恥じない充実したものになりました。この特集は、責任担当者を置く「キュレーター式」のやり方を一部導入して実現した特集でしたが、「映画祭のあり方」としても成功したと言えます。

特集「日本軍『慰安婦』問題を本当に知っていますか？」では、女たちの戦争と平和資料館(wam)からお借りしたパネル展示と、日本軍「慰安婦」問題を考えるための映画上映やトークを行いました。映画祭スタッフもこの課題に元から詳しくはなかったわけではなく、集会に参加し本も読み、各自でも学習しながらつくった特集企画でした。そのおかげで初心者でも分かりやすい特集にすることができ、確かな成果が得られたと思います。

東京レインボーウィーク2014の公式ガイドブックに「ゲイシティ テルアビブの魅力」など特集が4ページに渡って掲載され、日本でもピンクウォッシュが実際に行われています。またそれ以外にも、様々な形で「LGBTの政治利用」が行われつつある現在の日本の状況下で開催された**特集「ピンクウォッシュってなに？」**は、まさに今必要とされる特集でした。映画の上映後にはレクチャーも行い、この課題を日本の植民地主義などのローカルな課題とリンクさせて考えられるよう、問題提起もできました。

さらなるご支援をお願いします

これまでもそうでしたが、映画祭の内容や質がとても充実すると、その分、広報に割ける労力が不足し、集客に響くという問題が今回もありました。とても勿体ないことなので、改めて全体のバランスを検証する必要があります。

また、単年度の映画祭を毎年続けていく組織形態では無理があるので、今後も長く映画祭を継続していけるような組織体制を作ることも、今後の課題です。

来年以降も20回、30回とクィアな映画祭を続けていくためには、多くの方のご支援が不可欠です。今後とも、今まで以上のご支援と協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

1：開催趣旨（第10回 関西クィア映画祭 2016）

性にあたりまえなんてないよ

あなたはどんな性別で暮らしていますか？

恋愛やセックスは好きですか？どんな恋愛やセックス、人との関わり方をしていますか？

「男らしさ」や「女らしさ」が期待されることに、しんどくなった経験はありませんか？

こういった「男女という制度」の枠組みから出て、自分らしい性を生きている人たちが、既に沢山います。典型的であってなくてもいい、変（=クィア）でもいい、性のあり方は多様だ、私たちは生きていける。今回で10回目を迎える関西クィア映画祭は、そんなメッセージが溢れる映画を上映する「みんなのお祭り」です。

ところで「クィア」ってなんですか？

ひとりひとりが自分の性や生き方を選び決めていこう、規範の押し付けに反対しよう、というメッセージです。

「クィア/queer」は、性の領域で「ふつう」ではないと考えられている人々への蔑称として使われてきた英語でした。これを逆手にとって使うことで、様々な少数派を肯定し、「ヘンでもいい」「不一致は私たちの豊かさだ」と差異の権利を主張し、LGBTだけでなく「普通ではない」「典型的でない」生き方をポジティブにとらえ直す意図があります。

「歴史をつくる これからも わたしたちも」

第1回映画祭の開催から11年が経ち、最近「同性婚」「LGBT」も有名になりました。しかし、男性、シスジェンダー、日本人、健全者、お金持、大企業…つまり「私たち」のなかでも権力を持っている者の都合が優先されるしくみは、実は以前とあまり変わっていません。「みんな」にとってより公平な社会をつくるために、これからも、私たちも、問題提起を続けていきます。

タイヘン×ヘンタイ

性別や恋愛のあり方、生き方は多様だ—私たちはそう思って集まります。しかし時間を重ねると、私たち自身も他者の性のあり方に無知だったり、時には受け入れ難いことがある、と気がつきます。また私たちの間にも、性とは別の面での差別（民族、障害、社会的地位など）もあります。「少数派の中の少数派」を作ってしまうことや、限られた資源の中で優先順位をつけること、身近な差別・抑圧への無関心は、現に私たちの間にもあります。本当にそれらと向き合い、多様性を手に入れるのはとても「タイヘン」なのです。

最近「LGBT」の用語が流行りですが、私たちは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、ヘテロセクシュアルといった簡単な言葉では表しきれない存在です。恋愛対象の性別や自身の性別が、個人の人生の中で「変わる/変態する」ことだってあります。さらに「フツウのヘンタイより、とってもヘンタイ」でありたいという思いも含まれています。

【タイヘン×ヘンタイ】のキャッチコピー、「私たちはひとりひとり違っている、という現実に向きあうんだ！」という心意気を表現するには、ピッタリの言葉だと思いませんか？

2：実施概要・組織運営

企画名	第10回 関西クィア映画祭 2016
会期と会場	【大阪会場】 2016年 4月29日（金） 30日（土） 5月1日（日） とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ 【京都会場】 2016年 5月20日（金） 21日（土） 22日（日） 京都大学西部講堂
主催	第10回 関西クィア映画祭2016 実行委員会 代表 ひびの まこと スタッフ 井上彼方 / かぶ(パンフレットデザイン) / かりん / 岸茉莉 郭立夫 / 斬 / 西木久実 / 西山(チケットデザイン) / 朴秋香 ひびのまこと / 福永玄弥 / まいと / まるの / メイ / Yolly / りょう
後援 (大阪会場)	とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ (指定管理者 一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団)
協力	日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク Beijing Queer Film Festival (北京酷儿影展) Hong Kong Lesbian & Gay Film Festival (香港同志影展) Taiwan International Queer Film Festival (台灣國際酷兒影展)
後援	ノルウェー王国大使館 スペイン大使館 Embajada de España 在日アルゼンチン共和国大使館 大阪・神戸 ドイツ連邦共和国総領事館 ドイツ文化センター ベルギー王国大使館
チケット委託 販売 広告	京都ルミエール&コンボイ京都店 (チケット委託販売) Waa Gwaan (チケット委託販売・広告) 国際交流の会とよなか (TIFA) (チケット委託販売) コンドマニア神戸三宮店 (チケット委託販売・広告) iroha+ (広告) こう行政書士事務所 (広告) (交換広告) レインボーフェスタ! 関西レインボーパレード / Girrls∞Luv! / Laph / 香川レインボー映画祭 / レインボープライド愛媛 / 徳島カラーフリー文化祭

応 援
メッセージ

映画祭開催にあたり、15名の方から応援メッセージを頂きました。
映画祭の公式ウェブサイトに、掲載させて頂いています。

- ・ 要友紀子さん (SWASH)
- ・ 遠藤まめたさん (やっぱ愛ダホ! idaho-net.代表)
- ・ すぎむらなおみさん (愛知県立高校の「保健の先生」)
- ・ 屋嘉比 優子さん (輝け! SAサバイバー自助グループ運営人ミーティング・『父さんへのポストカード』上映実行委員会)
- ・ 成田容子さん (青森国際ナショナルLGBTフィルムフェスティバル 実行委員長)
- ・ 伊藤公雄さん (京都大学文学部教授・社会学)
- ・ 繁内幸治さん (BASE KOBE 代表・自由民主党性的指向・性自認に関する特命委員会)
- ・ エディさん (レインボープライド愛媛・愛媛LGBT映画祭・性的マイノリティの理解を進める・愛媛大会(全国虹の大会))
- ・ クィア食堂さん
- ・ 江尻真奈美さん (大須にじいる映画祭実行委員会代表)
- ・ Girrls∞Luv!スタッフ一同さん
- ・ 中川あゆみさん (ドキュメンタリー作家)
- ・ 石井愛さん (タウン誌『ザ・淀川』編集者)
- ・ 斬さん (SAG徳島・セクシュアルマイノリティについて学ぶ会)
- ・ 吉野鞆/ヨシノユギさん (医療訴訟元原告)



3：上映作品・特集・ゲスト

<p>上映作品</p>	<p>3つの特集、長編11作品、短編10作品、過去の上映作品の再上映3作品、計全42作品（うち日本初上映32作品）を上映。</p> <p>【製作国・地域】全19の国・地域からの作品。 日本・中国・香港・台湾・韓国・インド・ノルウェー・スウェーデン・ドイツ・スペイン・フランス・英国・南アフリカ共和国・アルゼンチン・米国・カナダ・パラグアイ・ベルギー・フィリピン</p>
<p>特集</p>	<p>●華語特集</p> <p>「私たちはここにいる！：北京女性会議と中国レズビアン運動の記録」「レズビアン・ファクトリー：台湾移住フィリピン女性の労働争議と女たちの物語1」「カレの月経」など、中国、香港、台湾からの9作品。また、アフタートークを5回実施。 福永玄弥が責任者として担当。</p> <p>●特集2：日本軍『慰安婦』問題を本当に知っていますか？</p> <p>「沈黙の歴史をやぶって～女性国際戦犯法廷の記録～」など2作品と「中学生のための『慰安婦』展・ミニセット」などのパネル展示。 アフタートークも2回実施。</p> <p>●特集3：ピンクウォッシュってなに？</p> <p>「パレスチナと障害の正義」「クィア課題としてのパレスチナ解放（ハニーン・マイキー講演録）」「パレスチナ人クィアへのインタビュー」など7作品（告知せず上映した1作品を含む）。 アフタートークも1回実施。</p>



華語特集

<p style="text-align: center;">ゲスト</p>	<p>【大阪会場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●4/29(金)『私たちはここにいる』 上映後に、Skypeで、石頭監督によるアフタートーク（華語特集） ●4/30(土)『Starting Over』 上映後に、西原孝至監督をお招きしてのアフタートーク。 ●5/1(日)『終わらない戦争』 上映後に、日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワークから関係者のお二人をお招きしてのアフタートーク。 ●5/1(日)『私とダンスを』 上映後に、Skypeで、小鉄さん（北京LGBTセンター/北京同志中心・代表）のアフタートーク（華語特集） <p>【京都会場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●5/21(土)「特集3：ピンクウォッシュってなに？」 上映後に、ひびのまことによる問題提起（アフタートーク）。 ●5/21(土)「華語特集・短編集」 上映後に、林知陽監督、林美兒監督、莫育權監督らをお招きしてのアフタートーク。プログラム後にも、会場横のテントで監督らと観客との交流の場を実施。 ●5/21(土)「好き好き短編集」 上映後に、『私は渦の底から』の野本梢監督から、舞台挨拶を頂きました。 ●5/22(日)『沈黙の歴史をやぶって ～女性国際戦犯法廷の記録～』 上映後に、沖縄から玉城福子さんをお招きしてアフタートーク。 ●5/22(日)『レズビアン・ファクトリー：台湾移住フィリピン女性の労働争議と女たちの物語Ⅰ』 上映後に、TIWAの呉静如さんと、在日フィリピン人の杉山カリサさんをお招きしてのアフタートーク。 ●5/22(日)『レズビアン・ファクトリー：台湾移住フィリピン女性の労働争議と女たちの物語Ⅱ』 上映後に、TIWAの呉静如さんのアフタートーク。プログラム後にも、会場横のテントで監督らと観客との交流の場を実施。
<p style="text-align: center;">付随企画</p>	<p>【大阪・京都の両会場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「上映前ミニ企画」として3分間スピーチを実施。 ●「性別指定のないトイレ」を設置。 ●各団体等のチラシ等を配架。 ●待ち時間に無料で性に関する書籍や漫画を読めるスペース「はしも図書館」を設置。 <p>【京都会場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●クィア食堂さんのポップコーンの無料配布。クィア食堂さんによるカレー販売やステンシル実演など。 ●カフェ・パランさんの出店によるコーヒー販売（オールナイト） ●頂いた応援メッセージを掲示。 ●上映中でもスマホや携帯の閲覧ができる場所として「スマホ席」を、客席の最後尾に設置。

4：観客数

	日付	枠名	人数	合計	総合計
大阪会場	4/29 (金)	うさぎちゃん、ロケットに乗る ポイータ 最後の夏	11	85	379
		[特集3：ピンクウォッシュってなに？]	22		
		レイクは老け専	27		
		[特集1：華語特集]私たちはここにいる！： 北京女性会議と中国レズビアン運動の記録	25		
	4/30 (土)	デブでフェムでアジア人の私の居場所 すれ違う時の中で	27	147	
		乙女とお姫さま ゲームフェイス	39		
		沈黙のあいだ / 君に出会って ナベシャツからの解放ー ろうトランス男性 オースティンの旅	38		
		あなたのここが好き Starting Over	43		
	5/1 (日)	[特集2：日本軍『慰安婦』問題を本当に 知っていますか？] 終わらない戦争	28	147	
		アウト・イン・ザ・ナイト	44		
		[特集1：華語特集] 私とダンスを	47		
		SMサリー	28		
京都会場	5/20 (金)	ジェンダーバスターズ アロハの心をうたい継ぐ者	21	103	889
		オープンな関係に、してみない？ レイクは老け専	34		
		ゲームフェイス	24		
		人生は一度きり	24		
		[特集3：ピンクウォッシュってなに？]	34		
	5/21 (土)	[特集1：華語特集] 短編5作品	61	261	
		[好き好き短編集] 短編5作品	66		
		EDEN	34		
		[オールナイト] 7作品	66		
		[特集2：日本軍『慰安婦』問題を本当に 知っていますか？] 沈黙の歴史をやぶって ～女性国際戦犯法廷の記録～	32		
	5/22 (日)	[特集1：華語特集] レズビアン・ファクトリー：台湾移住フィ リピン女性の労働争議と女たちの物語Ⅰ	50	146	
		[特集1：華語特集] レインボー・ポップコーン：台湾移住フィ ピン女性の労働争議と女たちの物語Ⅱ	36		
うさぎちゃん、ロケットに乗る ダイク・ハード ～友情よ永遠なれ～		28			

5：会計報告（2016年6月30日現在）

	項目	金額
収入	チケット売上	922,771
	広告収入（未収金を含む）	85,000
	助成金	0
	カンパ（スタッフからのカンパを除く）	125,487
	ミニ企画収入	35,645
	その他収入	25,732
	収入合計	1,194,635
	支出	映画上映料・ゲスト費用
上映関連費用(機材費・字幕代・会場費など)		314,775
広報費用(パンフ印刷費など)		298,682
送料(パンフ送料・国際送料など)		135,940
一般管理・運営費		233,740
その他		203,474
支出合計		2,059,390
映画祭 収支		-864,755
	スタッフからのカンパ	333,262
	字幕貸出料	104,900
単年度 全体収支		-426,593

6：来場者アンケート結果（一部抜粋）

来場者アンケートの中から、掲載許可をいただいたものを、一部抜粋してご紹介します。

大阪会場

映画祭全体について

- ・LGBTの他文化や政治的背景を知るいい機会となりました。本当にありがとうございました。
- ・どの映画も大変興味深かったです。アフリカ系アメリカ人の女性と中国でのセックスワーカーの女性に関する映画を見て、国によって性に対する考えは様々であることがよくわかりました。
- ・いろいろな作品を観たいので貴重な機会です。刺激的な作品・大資本の作品以外の作品もあるので楽しい。
- ・去年はなくてさびしかったわぁ。なので今回は楽しみです！

特集1：華語特集

- ・中国におけるレズビアン運動の過程を実際の監督さんからお話を聞いてよかったです。
- ・中国でもフェミニズム運動やLGBTの運動が盛んであることは大変興味深かったです。やっぱりアジア映画良いなーと思いました。

『私たちはここにいる！：北京女性会議と中国レズビアン運動の記録』

- ・中国のレズビアン活動を知ることができて、よかったです。
- ・石頭監督のトークも聞いてよかったです。

特集2：日本軍『慰安婦』問題を本当に知っていますか？（パネル展）

- ・地球上の様々な地域で戦闘が継続し、それに伴って性暴力を含めた非人道的な行動が広がると共に、日本の右傾化に伴い、旧日本軍の行動を正当化する言説が多くなっている中、この問題を正しく伝えていくことは非常に意味のあることだと思います。
- ・マスコミ報道はほんとうにウソなんですね。
- ・沖縄は慰安婦にされた女性が多く、その上米兵による強姦も多発し、女性の人権についてもっとも考えなければならない県だと思いました。
- ・知らないこと、知らされていないことの多さに改めて驚いています。
- ・慰安所設置の動機の一つに性感染症対策があったというのははじめて知った。非合理の遂行のために合理化を進めると、大抵非人間的に結果しますね。
- ・沖縄の慰安所マップには衝撃的でした。

特集3：ピンクウォッシュってなに？

- ・ピンクウォッシュという動きを初めて知った。イスラエルとパレスチナ攻撃の悲惨さは本で読んだことがありますが、性をつなげる概念は初めてです。ごめんなさい。
- ・ひびのさんの特集紹介に対して：私は在日朝鮮人ですが、朝鮮半島という言葉を出してくださり安心感が持てました。

上映前ミニ企画

- ・人生の多様性をみれた。素晴らしかった。
- ・とても身近に感じられました。
- ・とても好きな企画です。カテゴリー名を使わずに自身の生、性を語ることで色々、本当に色々気づくことがあると思います。とてもわかりやすく誰でもすぐにやってみられて考えることができるスバラシイと思います。

『デブでフェムでアジア人の私の居場所』

・ジェンダーや人種といった面に加えて、体型という側面が新鮮に感じられました。

『すれ違う時の中で』

・とても楽しく観ることができました。南アフリカの様々な断面が写し出されていて、最後まで食い入るように観ていました。個々の断面についてさらに深く知りたいと思いました。

『ゲームフェイス』

・とてもおもしろかった！目標がもてた、刺激的な作品でした。ファロンもテンレスもかっこいい！ファンになりました。

・主演2人がとにかく強く、生きようとしているのが伝わり感動した。カミングアウトできないつらさや、心ない差別にうちかった2人を見ていて、本当にかっこよかったし美しかった。いつか私もできたらいいなと。

『レイクは老け専』

・男性同士の映画をあまり見たことがなかったのですが、今回の映画でLGBT全体に対する考えの視野が広まりました。人は若い人が良いであったり、異性愛であることが自然であったりなど、当たり前である風潮を変えてくれるようなそんな映画だったと思います。

『乙女とお姫様』

・たしかに童話で同性愛を扱った作品は少ないなと気がつかされました。強いて言えば、幸福な王子でしょうか。きっと大人（親）のLGBTへの認識が変われば、未来の大人になる子供たちにもいい影響があるでしょうね。

『ナベシャツからの解放 — ろうトランス男性オースティンの旅』

・胸をとる手術の方の明るさが素敵だと思いました。
・すごいリアルでした。文章で見るよりも、やっぱり映像で見た方が分かりやすい。
・感動。思いを遂げて嬉しい。でも、もっと自由に解放されて生きたい。

『Starting Over』

・もがきながらそれでも生きて、変わっていく人の姿が現実的に描かれていてよかった。「こういう人たちがいるよ」というだけで、素敵な作品であると思いました。女の子どうしだから、何が他の人と違うのだろう、苦しんで生きる若者の時間で、同じであると改めて思いました。

・リアリティがあって引き込まれました。中にあったセックスワークへの嫌悪の部分、トークで取り上げられていましたが、若い二人の自傷的なセックスワークへのありふれた偏見的なところもリアリティでした。

京都会場

映画祭全体について

・自由で居心地が良い。玉城さん、途中で出てもいいよと言ってくださってホッとしました。
・今回、クィア食堂さんの無料のお茶とポップコーンとても嬉しかったです。
・西部講堂の雰囲気と環境が好きです。運営する方々には労力を要する施設なのかもですが、今後も是非ここで開催して欲しい。
・最後のスタッフさんの感想「キツかった」が多くて、手助けできればと。人に宣伝します。「西部講堂」で来にくいバイアス、先入観があるのかなあ。私は己が解放されてとても気分が良いのですが。居心地良く、野次もとばしつつ観れました。

- ・お疲れさまでした。なつかしい人たちにあった気分になりました。来年も来たいです。知人・友人に宣伝します。
- ・西部講堂で行われるクィア映画祭が好きです。毎年開催にがんばってくれている方々に感謝です。

特集1：華語特集

- ・映画の選択、字幕、ゲストともすばらしかった。中華圏と日本の運動の交流の歴史に大きく刻まれるのではないのでしょうか。
- ・監督のトークによって、映画の意思・背景がよくわかりました。

特集2：日本軍『慰安婦』問題を本当に知っていますか？

- ・ショックが大きかったです。すこし持ち帰って整理します。本や映画のレファレンスがあれば教えてほしいです。勉強します。
- ・大事なことで、自分も深く知りたいからちゃんと読まなくてはという気持ちと、女性として読むのがつらいという気持ちのあいだで複雑な気持ちになりました。慰安所に行ったり、現地の人を強姦したりした経験をもつ元日本軍兵士の体験談を読めたのは新鮮でした。

特集3：ピンクウォッシュってなに？

- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ひびのさんの話は、すごく説得力があったと思う。自分の立場を改めて考えるきっかけになる。すごく大事な視点を提供している企画だと思う。
- ・量がちょうどよいと思った。しばしば大量になり見にくくなりがちなので。
- ・ピンクウォッシュに無関心だったが時おり聞くいろいろな話が自分の頭のなかで繋がった気がした。映像と解説と文章で提示されて有り難かった。
- ・うーん、考えさせられました。ある一面だけで物事を見るのは良くないですね。
- ・映画を観るまでピンクウォッシュの問題について詳しいことを知らなかったため、勉強になりました。そしてこの問題がイスラエルとパレスチナだけに当てはまるものではなく、日本国内でも起きていることや、自分はLGBTの当事者ではありませんが、同様の構造が「女性の権利」という名前の下でも起きていたことに気づかされました。とても意義深い作品だったと思います。映画を観ていない人にも話をして、話し合いたいと思える内容でした。

上映前ミニ企画

- ・おもしろかったです。もっと長くして詳しく語ってもらうのもたのしそうだと思いました。

ジェンダーバスターズ & アロハの心をうたい継ぐ者

- ・ジェンダーだけにとどまらないようなテーマの作品でおもしろかった。

レイクは老け専

- ・とにかく老いた肌をセクシーに撮るシーンはすごいなと思った。そんなに既存のセックスシーンの撮り方と差はないと思うのだけど（照明とかなめるような撮り方とか）被写体が老人だから目新しくうつってしまう。自分の価値観と人って見慣れてきたものを基準にものを見るんだなと言うことと。それにしても最後のレイクの笑みはちょっと怖い。デジレの描かれ方は少し気になったけど、リングをあげるころは良くて、ただただ嫌みな感じのキャラクターにしたかったんじゃないのかなとも思った。

ダイクハード

- ・すごく幼稚だけどすごく温かくて素直で正直でよかった。（温かく）笑えた。

7：通年の活動

【2015年】

4月 実行委員会発足。ML開設。

4月～7月 組織のあり方や方向性についての話し合い

7月 第1弾広報チラシ作成

7月～12月 試写会（毎週）、作品探し、作品選び

9月 プレ企画用チラシを作成

9/20（日）プレ企画1「わたし」からみた、日本のセクマイ・クィア運動の20年 を開催
（ひとまち交流館・参加約20人・参加費300円）



10/4（日）プレ企画2 祝10回☆関西クィア映画祭の選んだ映画たち
（第5回AIDS文化フォーラムin京都）

10/10（日）レインボーフェスタ！2015へのブース出展

11/21（土）映画『R/EVOLVE-結婚と平等とピンクマネー』の上映とトークを共催
（マイノリティー・アート・プロジェクト（MAP）・富田林市・参加約20人）

【2016年】

1月～2月 上映交渉

2/13（土）第2回京都トランスジェンダー映画祭を開催
（京大文学部・参加30人以上・カンパ千円以上）

2月～3月 公式パンフレット作成

3/6（日）第3回徳島カラーフリー文化祭で映画上映とトークを共催

3/26（土）当日スタッフ説明会（第1回・豊中）・公式パンフレット完成/配布開始

4/9（土）当日スタッフ説明会（第2回・京都）

4/23（土）当日スタッフ説明会（臨時・京都）

4/29（金）～5/1（日）第10回関西クィア映画祭2016 大阪会場本祭

5/14（土）当日スタッフ説明会（追加・京都）

5/20（金）～5/22（日）第10回関西クィア映画祭2016 京都会場本祭

6/11（土）反省会および総会

6/18（土）第1回映画祭カフェ

8：広報活動

●公式パンフレット

3万部。両面フルカラー。コート63kg、B3サイズをMAP折り（外四つ折クロス二つ折）

デザイン：かぶ

【主な配布場所】

豊中すてっぷ、映画館、書店、飲食店（喫茶店、ゲイバー、レディースバーを含む）、大学、NPO団体、女性センターなど公共施設、各種サークル、イベント会場（性に関わる講演会など）、芝居折り込み、など。

●本祭に向けての、公式パンフレット以外の広報媒体

- ・ゲイバー配布用フライヤー（B6サイズ）
- ・すてっぷなど公共施設配布用チラシ（A4サイズ）
- ・ポスター（A3サイズ・2種類作成）
- ・立て看板（4枚張り・手描き・百万遍交差点に設置）
- ・立て看板（1枚張り・0.914×1.4m・京大周辺3ヶ所に設置）

●インターネット

ウェブサイト（<http://kansai-qff.org/>）

Twitter（https://twitter.com/kqff_official）、

Facebook（<https://www.facebook.com/KansaiQFF>）

ブログ（http://blog.livedoor.jp/kansai_qff）

映画祭ニュース（<http://www.freeml.com/kqffnews>）

●取材、記事掲載

- ・読売新聞
- ・朝日新聞
- ・京都新聞
- ・京都大学新聞
- ・SCREEN
- ・バディ
- ・ザ淀川

などに、掲載を頂きました。



「性の多様性」問う40本

同性愛など性の多様性をテーマにした映画を集めた「関西クィア映画祭」が29日から5月1日まで、豊中市の「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」で開かれる。実行委員会は「多様な性のあり方を感じる機会に」としている。

映画祭は2005年に始まり、今回が10回目。「クィア」は英語で「奇妙な」などを意味するが、性的少数者に対して蔑称として使われることがある。実行委はあえて使い、性的少数者の生き方を肯定するメッセージを込めているという。

今回は、スポーツ界の性的少数者らに焦点を当てた「ゲームフェイス」(15年、ベルギー・米国)や、南ア

豊中であすから 関西クィア映画祭

フリカの同性愛者らを題材にした「すれ違う時の中で」(15年、南アフリカ)など、世界各国の計約40作品が上映される。大半が日本初上映という。実行委のひびのまこと代表(48)は「映画は時に言葉以上に分かりやすく、時にありのまま伝えてくれる。多くの人が感情を共有したり、理解を深めたりする場になってほしい」と話す。

上映作品や時間によって入場料金が異なり、当日チケットは1000円から。余作品を鑑賞できるパスもある。問い合わせは実行委(080・3820・2731)。

5月20～22日には、京都市左京区の京都大西館講堂でも開催される。

第10回関西クィア映画祭

性をテーマにした映像作品を上映する“第10回関西クィア映画祭2016”が4月29日から5月1日までが大阪・とよなか男女共同参画推進センターすてっぷにて、5月20日から22日まで京都・京都大学西部講堂にて開催される。「SMサリー」(米)「ナベシャツからの開放／ろうトランス男性オースティンの旅」(米)「すれ違う時の中で」(南アフリカ)「アイツのどこがいいの?」(台)「これがピンクウォッシュ!シアトルの闘い」(米)など世界19か国・地域から集めた長編や短編の全41作を上映。



「すれ違う時の中で」

SCREEN (2016年6月号)

多様な性 映画で考える

性の多様性をテーマにした映画祭が各地で開かれている。世界には性的少数者を題材にした作品は数多く、上映を通じての問題提起が広がっている。



第10回を記念し、関西クィア映画祭の歴史を振り返る展示＝29日、大阪府豊中市

関西クィア映画祭10回目 豊中であすまで

29日、大阪府豊中市のとよなか男女共同参画推進センターすてっぷで、第10回の節目を迎えた「関西クィア映画祭」が開幕した。

最初に上映されたのはカナダの人情アニメーション「さきちゃん、ロケットに乗る」。主人公が姉から「私は女の子じゃない」と告白されたり、他の違うウサギと恋をしたりする物語。この日は中国の女性同性愛者の運動を通じたドキュメンタリーも上映された。

映画祭は2005年、「男らしさ」「女らしさ」を求め、社会的疑問を投げかけ、自分らしい性について考えよう」と始まった。

クィア(queer)は、当事者が仲間存在を感ずる。自身は男性とも女性とも思わない。「性的少数者」と一口に言っても形や課題は様々なことを伝えたい」

豊中会場は5月1日まで、20、22日には京都大西館講堂(京都市左京区)に会場を移して開かれる。問い合わせは実行委(080・3820・2731)。

性的多様性をテーマにした映画祭は世界で150以上あるとされる。7月に25回目を迎える「東京国際レズビアン&ゲイ映画祭」は昨年10日間、約4300人を集めた。店舗などにパンフレットを置くことも増え、最近では企業との協賛も増えている。『香川レインボー』(花房真子)

東京・四国・青森でも

性的多様性をテーマにした映画祭は世界で150以上あるとされる。7月に25回目を迎える「東京国際レズビアン&ゲイ映画祭」は昨年10日間、約4300人を集めた。店舗などにパンフレットを置くことも増え、最近では企業との協賛も増えている。『香川レインボー』(花房真子)

「東京国際レズビアン&ゲイ映画祭」は昨年10日間、約4300人を集めた。店舗などにパンフレットを置くことも増え、最近では企業との協賛も増えている。『香川レインボー』(花房真子)

「東京国際レズビアン&ゲイ映画祭」は昨年10日間、約4300人を集めた。店舗などにパンフレットを置くことも増え、最近では企業との協賛も増えている。『香川レインボー』(花房真子)

性と恋の在り方 見つめ直して

関西クイア映画祭 in 京都



②「ゲームフェイス」③「すれ違ふ時の中で」のシーン

「性」をテーマにした世界の映像作品を集めた「関西クイア映画祭 in 京都」が20、22日、京都市左京区の京都大西部講堂で開かれる。16の国と地域の計32作品が、性別の在り方や恋愛の多様性を提示する。

同映画祭は有志でつくる実行委が2005年から京都や大阪で開催しており、今年で10回目。レスビアンやゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーを指す「LGBT」といった言葉では表しきれない性を考えてもらおうと企画した。

上映作品の「ゲームフェイス」(2015年、ベルギー・米国)は、フ

あすから 世界の32作品上映

ロバケットボール選手を目指すゲイの青年とトランスジェンダーの女性格闘技選手がスポーツ界の無理解に立ち向かう。「すれ違ふ時の中で」(15年、南アフリカ)は、富裕層と貧困層の女性同士のカップルらが登場し、互いの葛藤を描く。

中国、台湾、香港の「華語作品」、慰安婦問題やイスラエルに対する批判の言葉である「ピンクウォッシュ」の各テーマを扱った作品の特集もある。一部を除き日本語字幕が付く。

映画祭代表のひびのまことさんは「自分では分かっているつもり、という人も会場に来て新たな発見をしてほしい」と話している。

3日間通しのフリーパス8千円。1回券などもある。詳細は映画祭のホームページで。(松尾浩道)

UP NEWS 03
こんなにいっぱい!?
クィアな作品が世界各国より関西に大集合



EDEN ©2012 映画EDEN/フィルムパートナーズ
 監督 武正純 / 101分 / 2012 / 日本

山本太郎演じるミロ(オネエ)とその仲間たちが、なりたいものになれなくても人生は棄てたモノじゃないと笑い、怒り、悲しみを乗り越え希望を見つけていく。



レイクは老け専
 監督 ブルースラブルース / 82分 / 2013 / カナダ

レイクは誰にも言えない秘密がある、それは老け専だということ。そんなレイクが、バイト先で出会った老人メルヴィンの最後の願いを叶えるために車を走らせる、年齢を超えた、愛情の物語。



ゲームフェイス
 監督 マイケルトーマス / 95分
 2015 / ベルギー・アメリカ

バスケットチームに入団したばかりのゲイのテレンス。元軍人でトランス女性の格闘家ファロン。二人がスポーツ界の無理解に立ち向かう。



人生は一度きり
 監督 トム・エグゼン / ショーン・エイヴァンズ
 95分 / 2015 / インド / ノルウェー

結婚を控えながらもノルウェーのゲイサウナへ向かったアリアンと、そこで出会った青年との密接な関係を撮ろうと時間の波が襲う。

大阪&京都に各国の名作勢揃い!
10回目だよ!関西クィア映画祭

国内外よりLGBT関連の映画を集め一堂上映している関西クィア映画祭が、今年も開催決定! 昨年通り大阪と京都の2会場でなんと合計41作品を上映予定! この規模の映画祭はなかなかないのでチェック! 文-YDU

記念すべき10回目ではなんと、上映作品が41本という国内では異例の多さ。もちろん、どの映画も当事者だけでなく、家族や友人、またアライなど身近な人たちと考え、感想を語り合えるものばかりです。なかなかお目にかかる機会のないクィアな映画たちをこの機会に観賞してみたいかがでしょうか。さらに、今年は実行委員会が特集を組み、テーマに沿った作品を厳選し上映しています。それらのテーマを知ってから鑑賞することで「なんとなく観る映画」から「目的を持って観る映画」へといつもとちょっと違う角度から楽しむこともできるような仕掛けを盛り込んでいます。とはいえ、楽しみ方は人それぞれ。一度足を運んでクィアな映画を思い思い楽しみましょう! **関西クィア映画祭2016より、「1回券」をプレゼント。**応募の方法は108ページをご覧ください。

第10回関西クィア映画祭2016

日程 / 大阪 | 4月29日(金)~5月1日(日)
 とよなか男女共同参画推進センター ずてっぴ
 (大阪府豊中市玉井町1丁目1番1-501号)
 京都 | 5月20日(金)~5月22日(日)
 京大文学部講堂
 (京大電鉄・鶴山電車「出町柳」駅より徒歩12分)
<http://kansai-qi.org/>

チケット価格	前売	当日
1回券	1300円	1800円
3回5回券	3400円	4000円
大阪バス	6800円	8000円
京都バス	6800円	8000円
フリーバス	10000円	12000円

- チケット取扱店**
 【大阪会場】4月29日(金)~5月1日(日)期間のみ発売 | 【京都会場】5月20日(金)~5月22日(日)期間のみ発売
- 京福丸ビル6Fコンボイ京都店
TEL / 075-341-0213 <http://convoy-kyoto.com/>
 - WaaGwaan
TEL / 06-6365-1991 <http://www.waa-gwaan.com/>
 - 国際交流の会とよなか(TIFA)
TEL / 06-6840-1014 <http://tifa-toyonaka.org/>
 - コンドマニア神戸三宮店
TEL / 078-321-1631 <http://condomania.jp/>
 - ファミリーマート「FamiPort」
「関西クィア映画祭」で検索
 - e+「イープラス」
<http://eplus.jp>

GWのゲイスパで
新しい出会いを見つけよう!

若きゲイをターゲットに、初心者でも楽しめるイベントとして人気を博すゲイスパは、このゴールデンウィークも大盛り上がりをお見せ! カン★パディモデルも多数登場しちゃうよ! 文+HRD

東海地区ゲイシーンの発祥地といえば、ゲイスパ。今回は「フレッシュマンデビュー」と題してバラエティーに富んだ企画が盛りだくさん。ゲストには本誌1月号のカバーモデル・ゆうとがウェルカムボーイとして登場し、大人気ゲイアプリ「9monsters」による新款コンパもお届け。さらに今回はちょいエロ企画の「スポユニ男子選手権」も開催! 自慢のスポユニ6モッコリ強豪エロ下着をステージで披露しちゃいます〜♥ さあ若きゲイもベテランも新しい出会いをゲイスパで!

Gay Spira
フレッシュマン
デビュー
スペシャル2016

開催日 / 2016年5月3日(火)
 20:00 OPEN
 場所 / club JE's(名古屋栄)
www.gatspiral.com
 bukber > gay_spiral

パディ2016年1月号のカバーモデルで、人気ゲイパディ俳優のゆうと君がウェルカムボーイとして登場! パーティのメラマンに記念写真も撮ってもらおう! イベント詳細は128ページの広告をご覧ください。



9：資料

ことばの説明

▼異性愛/ノンケ/異性愛中心主義/ヘテヘテ

異性を性愛の対象にすることを「異性愛(ヘテロ)」、そういう人のことを「異性愛者」、その俗語が「ノンケ」。異性愛を自明視し無意識のうちに優遇する社会と個人のあり方を「異性愛中心主義」、これらに鈍感なことや人を「ヘテヘテ」。

▼トランスジェンダー

出生時に振り分けられた性別とは異なる性別で生きようとする人。性同一性障害の人も含む幅広い言葉。

▼Xジェンダー

性別二元論の枠組みから外れる立場、あるいは両性、中性、無性などの名乗り方。また、女/男のいずれかを選ばせられることに反対する考え方。英語の「genderqueer」や「gender nonconformity」に近い。

▼トランス男性 / トランス女性

女性として扱われたり女性として暮らしたりした経験を持つ男性と、男性として扱われたり男性として暮らしたりした経験を持つ女性たちがいる。そういったひとたちはそれぞれ男性 / 女性である。性別の移行に焦点を当ててトランス男性 / トランス女性と呼ばれることもあるが、こう自称する場合、理由は様々でひとくくりにできない。

▼フェミニズム

今の社会には「男女という制度」や「女性差別という社会構造」があるという事実認識を前提にして、性別に基づく差別や抑圧に反対するという考え方。

関西クィア映画祭の歴史（第1回から第9回まで）

関西では、「東京国際レズビアン&ゲイ映画祭 in 京都・大阪（1996年～2000年）」や「セクシャリティ映画祭（2000年）」が以前にはありました。関西クィア映画祭（KQFF）は、これらとは組織的なつながりのない形で、2005年に始まりました。

●映画祭の立ち上げ

2000年に、関西の一部のゲイ活動家が中心となって「大阪レズビアン&ゲイ・パレード」の開催を呼びかけ、関西のセクマイ系コミュニティで大問題になる事件がありました。これは、パレードの名称や代表者、開催時期、目的などの重要な事項を、数人の人たちだけで集まって勝手に決めてしまった閉鎖的独裁的な手法と、「レズビアン&ゲイ」という同性愛者中心主義（バイセクシュアルやトランスジェンダーの二級市民扱い）が問題となった事件です。大きなイベントをしようという人たちが間違った手法と目的で動いてしまったため、関西のコミュニティには不信と分断が作られてしまい、パレードを含む大きな企画

を開催することが困難になってしまいました。

この状況をなんとか打開して関西でもセクマイの運動を大きく作るために、原則的な手順を踏んで作られたのが映画祭でした。最初の言い出し人である木村真紀さんは、関西で活動する考えられる全てのグループや個人に広範囲に参加を呼びかけ、だれでも参加できる公開された形で第1回目の実行委員会を開催しました。そこでは、特定のセクシュアリティを優遇せず、また「関西らしいね」ということで、「Queer」という言葉を使い「関西QueerFilmFestival」を開催することに決まりました。

第1回目はとにかく開催することが目的でしたが、東京国際レズビアン&ゲイ映画祭（TILGFF）の強力な支援も得て、約1200名の来場で開催できました。映画は殆どTILGFFから字幕とともにお借りしたのですが、関西在住の浪速ビニール監督の『まんこ踊り』や、インターセックスをテーマにした『ビーイング・ノーマル』、そしてトランス映画の『ロバート・イーズ』などは、関西独自プログラムとして上映しました。

●トランス映画を探してみた（第2回）

第2回目は、トランス映画を自分たちで探したことと、試写を丁寧に行ったことが特徴です。TILGFFではトランス映画の上映が少ないので、本当にトランス映画はないかと独自で探したところ、世界には「トランスジェンダー映画祭」もあり、日本に紹介されていないだけでたくさんのトランス映画があることがわかりました。また、前年はちゃんと試写をせずに上映作品を選んでいたので、映画祭を開催する立場としてはそれはひどいということで、この年から試写には英語などの分かる人を必ず手配して、逐次通訳をしてもらいつつ皆で試写する形が、定番になりました。自分たちでトランス映画を探して沢山上映したので、この年の独自プログラム率は作品数では半数を超えました。また日本語字幕の作成を始めたのも、一部の実行委員たちが「京都★ヘンナニジイロ祭」を開催したのも、この年です。

短編映画『Pimp & Ho: Terror In Pansy Hills』の邦題を『オカマ♥殺人事件』にすることになったのですが、「オカマ」の用語は傷つく人がいるとしてこの邦題に反対する実行委員がおり、議論になりました。自身の映画祭の名前にQueerと掲げていることもあり、結局「オカマ」を使う事になりましたが、その時の議論の経験は、この年の実行委員長の開会挨拶にも反映されています。

●「タイヘン×ヘンタイ」（第3回・第4回）

第2回での邦題における「オカマ」をめぐる議論を発展させる形で、第3回からは映画祭の名前を「関西クィア映画祭」に変更し、また、第3回映画祭のキャッチコピーを「タイヘン×ヘンタイ」としました。上映作品も、TILGFFからお借りする作品はあるものの、基本的には自分たちで探す形になりました。そして、非常に充実したトランス映画を揃えることができました。

この年はノルウェーからハングリーハーツというレズビアンが中心となったグループが映画とともに来場し、素敵なショーを披露してくれました。しかし、会場であり共催であるハップホール側と十分な打ち合わせをせずに話を進めてしまったため、ご迷惑をお掛けし、不信感を与えてしまいました。また、実行委員会内部の人間関係のトラブル（及びハラスメント事件）が開催3ヶ月前に発生し、一時期開催が危ぶまれる事態にまで陥ったことも記しておきます。

翌第4回は、前回のトラブルの影響もあって開催を半年遅らせ、2009年1月開催でした。

第3回のキャッチコピーであった「タイヘン×ヘンタイ」も、映画祭それ自体の冠コピーとして今後も継続して使うことにしました。映画祭本体とは別にプレ上映会も開催し、また日本語字幕の貸し出しも増えるなど、映画祭以外の場での映画の上映機会を増やすこともできました。『百合祭』の浜野佐知監督のトークで幕を開けた映画祭は、トランス映画も増え、また約1500名の集客を得るなど成功裏に終わりました。ただ映画祭後に、会計担当者の横領事件があったことが残念でした。

●京大西部講堂でも開催（第5回）

第5回からはHEP HALLに加えて京大西部講堂でも開催し、特にオールナイト上映が好評を得ています。誰でも一度は行ったことがある有名なファッションビルにあるHEP HALLは、立地も含めて、誰でも参加しやすい敷居の低さが特徴です。西部講堂はテント芝居やパンクロックなども含めたアングラ文化の拠点でもあります。2会場それぞれの特徴を生かすことで、映画祭の幅を広げました。この年はクィア映画に詳しい英語も堪能なスタッフがいたため、充実した上映作品と充実した映画祭パンフレット（日英併記）を作成しました。また朝鮮学校を描いたドキュメンタリー『ウリハッキョ』を上映したことも特徴です。これは、一部団体が京都の朝鮮学校に押しかける事件があったことなどを踏まえての企画でした。

独自上映の作品を増やすということは字幕作成も増えるということで作業量も増大するのですが、上映会場・上映日・作品数などの規模の拡大にスタッフ力量が追いつかず、広報が十分に出来なかったために大幅な集客減と大幅な赤字になってしまいました。また西部講堂での打ち上げ時、当日スタッフできていたKによる暴行事件が発生しました(今後Kが映画祭に関わることを公式に禁止)。

●まんこ山盛り（第6回・第7回）

第6回で特筆すべきは『TOO MUCH PUSSY！フェミなあばずれ、性教育ツアーで大暴れ』でしょう。映画上映後、大阪ではまんこについてのスタッフトーク、京都ではストリップショーを行うなど、盛り上がりました。この作品を見て、その後映画祭のスタッフになった人もいます。「TOO MUCH PUSSY！」の邦題は直訳では「まんこ山盛り」ですが、この映画を見てほしい客層を遠ざけないために「まんこ」の用語の邦題での使用は避ける決定を実行委員会としてしました。

またこの年は「関西クィア通信」というミニペーパーも発行したり、共同代表によるウェブテレビの試みなど、新しい試みを行いました。浜野佐知監督の『百合子、ダスヴィダーニヤ』の上映もこの年です。充実したスタッフ体制の中で、収支もトントンまで持ち直し、映画祭の継続にめどをつけた年でした。

第7回では、各会場毎に異なる特別企画を初めて実施しました。大阪では「すぎむらなおみさんトーク&KQFFオフ会」として観客同士で話す機会を作り、京都では「日本のレイシズム—朝鮮人差別への無関心」としてスタッフが撮り下ろしたドキュメンタリーを上映、レイシズムについて議論する時間を設けました。また、パンフレットの表紙を漫画家の森島明子さんにお願いし、魅力的なイラストを描いて頂きました。

●『罪なき罪-クィアと身体障害』の上映とベルン監督の来日（第8回）

プログラム担当者が代わり、女子系作品や中東作品が充実したのが第8回の特徴です。また『罪なき罪-クィアと身体障害』の上映とベルン監督の来日も、特筆すべきでしょう。クィアな障害者に会いたいという監督の希望もあり、要約筆記によるろうの来場者への情報保障も行いました。空き時間に来場者が漫画や本を読んで時間を過ごせる空間としての「はしも図書館」や、写真展「わたしの○○○」も開催するなど、企画にも奥行きが出てきました。

●初の、豊中の「すてっぷ」での開催（第9回）

第1回から会場としていたヘップホールの運営方針が変わり、会場を豊中のすてっぷに変更しました。また第1回から実行委員会に参加していたひびのがこの年は実行委員会に参加せず、西部講堂での開催もなく、これまでとは雰囲気が変わった回になりました。特筆すべきは、上映会場の横に、来場者同士で交流することのできる部屋を用意し、そこで各種展示や映画の感想を述べあう企画を行ったことです。またこの年より、情報保障を目的として、日本語作品に対しても日本語字幕を付けることを実行委員会の方針としました。

会場をすてっぷの1会場のみにしたこともあり、総来場者数は前年度より大幅に減少しました。しかし各プログラム枠ごとの来場者数は増え、賑やかさのある映画祭となりました。

回	開催年	会場	代表	日数	枠数	作品数	来場者数	枠平均 来場者数
1	2005	ヘップホール	木村真紀	2	9	22	1,147	127
2	2006	ヘップホール	塩安九十九	5	14	40	1,550	111
3	2007	ヘップホール	ジョー・ラムリー ひびの まこと	5	15	50	1,180	79
4	2009	ヘップホール	KUMA/鄭光珠 /ひびのまこと	5	15	29	1,497	100
5	2010	ヘップホール 西部講堂	ひびの まこと	6	21	56	1,017	48
6	2011	ヘップホール 西部講堂	ゆ/りょう/ ひびのまこと	6	25	29	1,297	52
7	2012	ヘップホール 西部講堂	ひびの まこと	6	26	21	1,422	55
8	2013	ヘップホール 西部講堂	ひびの まこと	6	24	20	1,510	63
9	2014	すてっぷ	なし	3	9	18	832	92
10	2016	すてっぷ 西部講堂	ひびの まこと	6	25	42	889	36
これまで10回の延べ数						327	12,341	